

高粱の近代化遺産③

高粱の殖産興業

「殖産」とは、生産物を増やすこと。産業を盛んにすること。「興業」とは、新たに事業をおこすこと。『広辞苑』第六版はこう記します。鎖国を解き、列強との貿易を始めた明治政府は、わが国の「近代化」を急ぎました。農業国から工業国への転換です。殖産興業政策の代表例は、明治五年に創業



高粱市観光駐車場(下町)に建つ「第八十六国立銀行跡 中国銀行発祥の地」の碑。創業120年を記念して平成11年12月9日に建立された。

した群馬県の富岡製糸場。紡績業の起りは、慶応三年と明治三年、薩摩藩によって鹿児島と堺に開設された紡績所です。明治政府は、広島と愛知に模範紡績工場を建設した後、イギリスから輸入した十機の紡績機を民間に払い下げ、綿紡績工業発展の礎としました。「十基紡」といわれるこの紡績所のふたつが、児島と玉島に建設されました。

大政奉還により家禄(注一)廃止。金禄公債証書(注二)で糊口をしのいでいかなければならなくなった旧士族たちにとって、興業は、生活のために避けては通れない大きな課題となりました。明治政府は士族授産事業に力を入れた。岡山県内でも数多くの企業が生まれまし。しかし、成功したのは、わずかに金融、紡績と海運業。高粱では、旧松山藩士らが出資して、明治十二年に「第八十六国立銀行」が設立されました。

高粱の製糸業は、明治二十一年に養蚕伝習所が置かれて以来、昭和の初期まで続きました。旧巨瀬村はエリア随一の養蚕地でした。農家の副業にと、清から輸入していた麦稈真田紐の生産に着目したのは時任義当。時任は、南町の豪商・中村源蔵らに起業を働きかけました。明治十五年前後のことです。大きな初期投資のいらない麦稈真田紐は、昭和の初めまで、高粱を一大生産地にしました。日本地理教科書には、わが国を代表する集散地として掲載されたほどです。

高粱の産業で忘れてはならないのが煙草です。山田方谷が栽培を奨励した「備中葉」は、庶民に愛された「松山きざみ」の原料でした。



『岡山県の近代化遺産—岡山県近代化遺産総合調査報告書—』に取り上げられた成羽町上日名の煙草乾燥小屋。岡山近代史研究会の森元辰昭氏は、上日名などでは、黄色種の乾燥に「鉄管火力乾燥法」を用いたと述べている。

「備中葉」が外来の「黄色種」にかわつたのは、昭和十一年から十三年頃。葉煙草の乾燥方法は、「天日干し」から「火力」になりました。煙草は、江戸から昭和まで、高粱の産業を支えてきた立役者。高粱周辺に残る土壁、越屋根構造の煙草乾燥小屋は、近代農業の貴重な遺産です。

(文) 吉備国際大学社会学部ビジネスコミュニケーションシヨン学科准教授・小西伸彦さん)

(注一) 主君から家臣に世襲的に与えられる俸禄。江戸時代、幕府では旗本・御家人に、大名では士に付いていた禄。つまり、給与。(『広辞苑』第六版)

(注二) 金禄公債とは、明治九年、政府が華族・士族の家禄および賞典禄に代えるため発行した公債のこと。(『広辞苑』第六版)

編集と発行(毎月15日発行) 高粱市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高粱市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。